



第57回現代書しぶぶり会書展

2018年(平成30年)7月3日(火)~7月8日(日)

於：銀座大黒屋ギャラリー7階

< 出品目録 >

今の自分でしか表現することが出来ない書作品です。どういふ姿勢でどんな思いを込めているか、うまいまずいでない“書”そのものから受ける感じを掴んで下さい。一つ一つの作品を自分で書いてみる気持ちで観賞していただきたいと思います。

■ 第57回 現代書しゅはり会展 出品目録

〈特別展示〉

小林 龍峰「朧月夜」「彩(帯)」

〈会員〉

松林 千鶴「梅壇の…」 「舟」

小野 静江「陽炎(かぎりい)」 「道化師」 「無理せず…」

木村 伊知朗「棋聡天才」 「鳳凰」 「獺

RICHARD FLAVIN 「一切唯心造」 「自然法爾(じねんほうに)」

「好奇心」

大西 房子「杜鵑草」 「還」 「雷神」

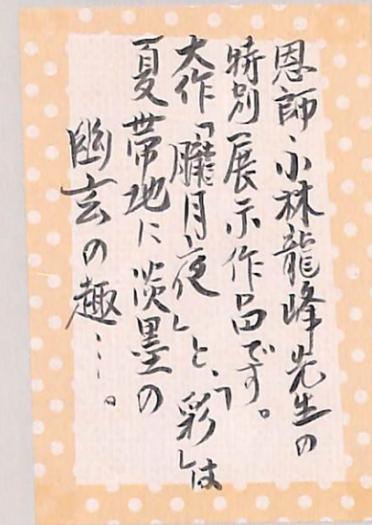
石坂悦子

小林 鯨「酔臥沙場」 「高砂」 「花顔(はなのかんばせ)」

課題 “からだの部位” 漢字一文字

〈特別展示〉 小林 龍峰

しゅはり会創始者



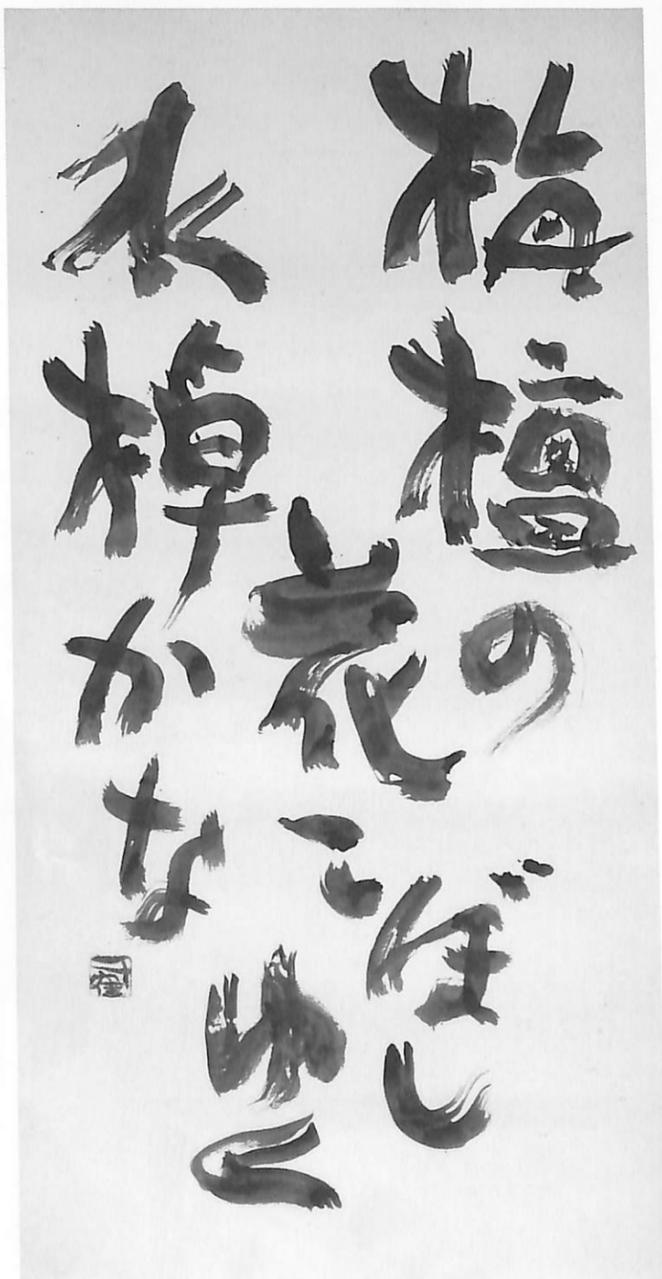
朧月夜
134×69



彩(帯)
30×30

松林 千鶴

梅檀
135×70



舟
135×70

小野 静江



無理せず... 45×60



道化師
67×69



陽炎 (かぎり)
135×70

同期るしや
小野(関谷)静江
ナンの力作三占。
長くてしなやかな筆
先から滴り落ちた墨
夜の偶然性をも生かす
感性に拍手。
まるで墨流しの如き
「手法」にも通じる
魅力ある墨色の
妙を感じました。

木村 伊知朗

棋総天才
1100×52.5



鳳凰 70×35

獺
57×35



RICHARD FLAVIN

一切唯心造
188×57



自然法爾(じねんほうに)
96×56.5



好奇心
93×58





杜鵑草
60×130

還 135×70



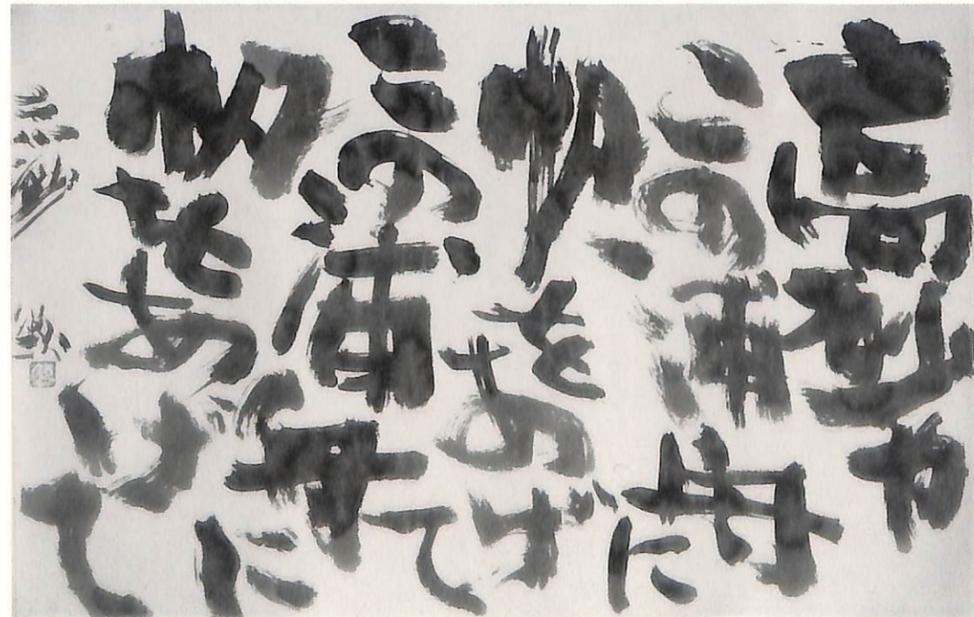
雷神 135×70

かつて
戸山高で机を
並べたふたりです。
家慶を築き上げ
子育てを遂げ、
八丁路を越えた
今日でも
尚

酔臥沙場
133×65

「書を
愛するは、こころ
は、恥ぢかたはかり
この小林鯨先生の
書に負け
ませんぜ」
(笑)

花顔 (はなのかんげせ)

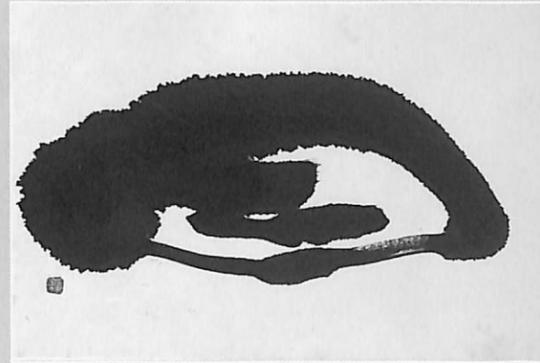


高砂
60×90

課題「からだの部位」(漢字一文字) 半紙 1/2 大



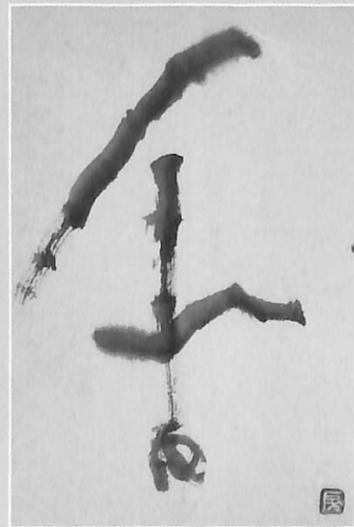
「耳」松林 千鶴



「目」小野 静江



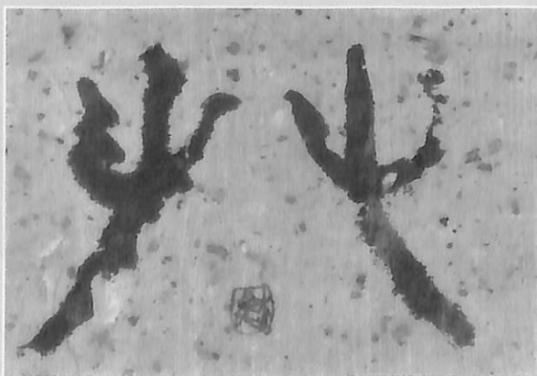
「顔」木村 伊知朗



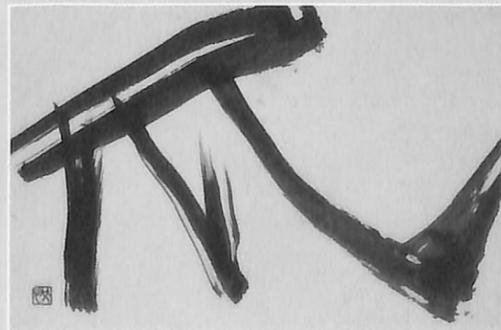
「舌」大西 房子



「骨」小林 鯨



「手」RICHARD FLAVIN



「爪」石坂 悦子

しゅはり「守・破・離」とは 小林龍峰

人はそれ自体絶対です。
良かろうと悪かろうと、それが自分です。
良し悪しも、仮に外から計った評価に過ぎません。

そういう絶対の自分を確かめ、自覚し、自愛して
いくのが人生です。自分を守る以上に、だれが深
く守ることが出来るでしょう。
それが「守」です。

自分を見つけ大切にしても、より豊かになるため
には、いつも蚕のように脱皮し、自分の小を打破
しなければなりません。
それが「破」です。

仮に満足すべき境地に出会っても、それに甘んじ
ていれば、いつか新鮮さを失くし、停滞し、陳腐
になってしまいます。
今日の満足を棄てて、明日に向かって心を新しく
して行かねばなりません。
それが「離」です。
この会は、そういう気持で書作しています。

Wally®